

JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY THE RAICHO HIRATSUKA PRIZE



2010 (平成22) 年2月13日
全3枚(この用紙含む)

報道関係各位

学校法人 日本女子大学

第五回「平塚らいてう賞」贈賞式が開催される

～顕彰(1件)「松村由利子氏」、奨励(1件)「芝原妙子氏」～

第五回「平塚らいてう賞」贈賞式を、2月13日(土)午後2時00分から日本女子大学新泉山館大会議室(目白キャンパス)において開催し、日本女子大学 蟻川芳子 学長より、顕彰1件 松村由利子氏(日本文藝家協会会員、現代歌人協会会員)、奨励1件 芝原妙子氏(同志社大学大学院アメリカ研究科アメリカ研究専攻博士課程(後期))に対して、それぞれ賞状と副賞賞金を贈呈いたしました。

「平塚らいてう賞」は、「平塚らいてうの記録映画を上映する会」のご芳志をもとに、人生を女性解放や世界平和のための活動に捧げた平塚らいてう氏(1906年日本女子大学卒業)の遺志を継承し、男女共同参画社会の実現および女性解放を通じた世界平和に関する研究や活動に対して、顕彰と奨励をはかることを目的に創設したものです。

募集にあたっては、本趣旨を社会に広く伝えること、また、今後の活動が進展することを願い、全国で研究や活動を行なっている個人、または、団体を対象としています。

第五回目の今回は、6件(顕彰5・奨励1)の応募があり、厳正な審査の結果、受賞者を決定しました。

顕彰はこれまで際立った功績をあげた方へ授与し、奨励は研究や活動を継続的に行なっている方、あるいは新たに取り組もうとしている方に授与します。

本賞は、平塚らいてうの精神を受け継ぎ、平和で平等な21世紀の社会を作るために行うものであり、今後もこれからの社会を担う多くの若い研究者や活動家の応募を期待しております。

問い合わせ先

日本女子大学 総務部 広報渉外課

「平塚らいてう賞」事務局

電話: 03-5981-3163

FAX: 03-5981-3164

らいてうの遺志を世界に向けて

「平塚らいてう賞」も本年で第5回を迎えることになりました。本賞は、男女共同参画社会の実現および女性解放を通じた世界平和に関する研究や活動に光を当てること、ならびに若い世代に対して平塚らいてうの遺志を継承していくことを目的としてつくられました。

らいてう（本名明^{はる}）は、日本女子大学の創立者成瀬仁蔵の人格・生命力に触れ、その後の生き方に多大な感化を受けた一人です。男女平等理念を根幹とする人権思想、言わば「ヒューマニズム」を源泉とした女性の天職としての平和運動への参画です。成瀬仁蔵が説いた平和構築の担い手という女性の新しい社会的責務は、更にいろいろな人々へと受け継がれています。私が高校生であった1955年、世界平和アピール七人委員会ができました。ノーベル物理学賞受賞者湯川秀樹、東京大学総長茅誠司、本学第6代学長上代タノらとともに、平塚らいてうはその設立者の一人でした。「核の廃絶」を訴えたグループの活動は、委員が交代しながら長い間続きました。らいてうの遺志が未永く世界に向けて発信されていくことを願っています。

2010年2月吉日

学校法人 日本女子大学 理事長・学長 蟻川 芳子
～第五回「平塚らいてう賞」贈賞式リーフレットより～

第五回「平塚らいてう賞」選考委員発表コメント

第五回受賞者の選考にあたり、私どもは、候補者の業績を広く、世界の女性のさらなる解放、問題の解決、平和問題や地域社会への公正な目配りと着実な行動の継続という観点から論議し、以下の諸業績に対して、「顕彰」、「奨励」に値するとの結論に達しました。それぞれのご業績の特色や褒賞に値する観点は下記の通りです。

< 顕 彰 >

受賞者：松村由利子氏（日本文藝家協会員、現代歌人協会員）

研究テーマ：母性保護論争についての新たな視点と究明

受賞理由：

本年度の「平塚らいてう賞」の顕彰部門は松村由利子氏の『与謝野晶子』（中公叢書 2009年2月刊）を主とする業績に対して贈呈することとなった。

近代日本の歴史研究のなかで、とかく軽んじられている女性史なのであるが、与謝野晶子は数少ない必ずとりあげられる人物の一人である。晶子の残した仕事は和歌・詩・小説・歌論・評論（社会批評を含む）・随筆・童話・童謡など多岐にわたる分野に膨大なものがあり、さらに与謝野源氏といわれる源氏物語の現代語訳など古典の紹介も有名である。したがって、与謝野晶子に関する研究も著作の基礎資料の再検討から夫鉄幹の関わりなどを含めて、様々な角度から進められてきているが、未だ課題は多いといえるであろう。

松村氏はこれまでの歌人そして平塚らいてうとの母性保護論争に注目があつまってきた晶子研究に対して、一分野にとらわれず晶子の全体をみようとした。科学への関心、十三人の子を産み育てたその思い、そしてその間にあふれ出た童話や童謡の創作、聖書への関心など、新しい晶子像をつけ加えた。男子優先の近代日本社会の中で、とらわれない女性自身の肯定や自立の活動を晶子の生き方によりそって明らかにしようとした。それは松村氏の記者生活や歌人としての活動を背景に、現代に訴えるものを、晶子に見出したからである。

< 奨 励 >

受 賞 者： 芝原妙子氏 (同志社大学大学院アメリカ研究科後期課程)

研究テーマ： トランスナショナル・フェミニズムの観点から考察する戦間期の日米女性の社会活動：
平和運動と女性の権利獲得運動

受賞理由：

本研究は、二つの世界大戦に挟まれたいわゆる「戦間期」の権利獲得運動を「国境内 (ナショナル)」のフェミニズムと「トランスナショナル・フェミニズム」に分けて考えれば、女性参政権獲得運動は前者、女性の平和運動は後者に属するという視点に立って考察を進めている。具体的には、婦人国際平和連盟の成り立ちの歴史を詳細に追求し、欧米人の日本人への働きかけによって、どのように日本の女性たちが触発され、「日本独自の平和運動」を創り出していったかを跡づけようとするものである。この時代は日本における女性の高等教育が発達した明治一大正期にあたり、資料も多く、また欧米でも20世紀末から今世紀初めにかけて、再びこの時期の女性平和運動に対する関心の高まりを示す著作が増えている。それらは現代の世界情勢を反映していると思ってよかろう。そうだとすれば、本研究に期待されるものもいっそうふくらむと言える。

第5回「平塚らいてう賞」<顕彰> 受賞スピーチ (要旨)

松村 由利子氏

日本文藝家協会員、現代歌人協会員

与謝野晶子について書きたいと思ったのは、平塚らいてうらの母性保護論争に興味を抱いたのがきっかけである。この論争は「母性保護」にとどまらず、女性の生き方や家庭、社会のあり方について広く考察するものだった。私たちはその中に「男女共同参画」や「ワーク・ライフ・バランス」といった、今まさに課題として取り組まれているテーマを見出すことができる。

晶子もらいてうも、よりよい社会を夢見た。熱く論を戦わせながら、二人の間には信頼感や親しみがあったに違いない。若き日のらいてうは晶子に短歌を教わり、晶子は「青鞥」の創刊号に「山の動く日来る」の一節で知られる詩を寄稿して以来、終刊まで賛助員として詩や短歌を寄せた。今回の受賞は浅学の私にとって過分な荣誉だが、らいてうの名を冠した賞を『与謝野晶子』が受けるという巡り合わせを、晶子とらいてうが愉快がるのではないかと思うと、嬉しさも一入である。

以上

問い合わせ先

日本女子大学 総務部 広報渉外課

「平塚らいてう賞」事務局

電話： 03-5981-3163

FAX： 03-5981-3164